

適期の防除と実肥施用で品質・収量確保!

1. 気象および麦の生育状況

12月中旬までは平年並の生育でしたが、12月下旬から3月上旬にかけて降雪により気温が低く推移したため、出穂期は平年より遅れることが見込まれます。

適期防除と必要に応じた実肥を施用しましょう。

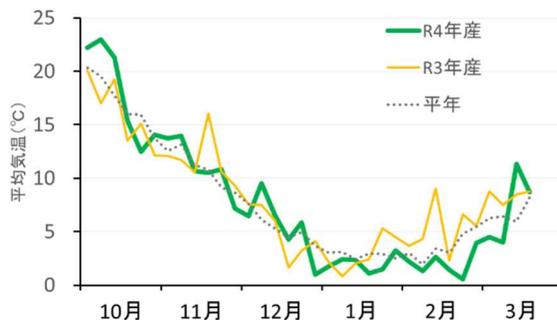


図 麦作期間の平均気温

2. 品質・収量確保に向けた管理

(1) 赤かび病防除

大麦は赤かび病に弱いため、必ず2回防除を行いましょう。1回目は開花始め、2回目は1回目の1週間後です。気温の経過により、出穂期～開花期の日数は変化しますが、以下の目安を参考に防除の準備を進めましょう。

【防除適期の目安】

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花始め)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
10月中～下旬	4月19日前後	4月21～26日	4月28日～5月3日
11月上旬～	4月24日前後	4月26日～5月1日	5月3～8日

※今後の気象状況によって、出穂時期は前後することがあります。

(2) 実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。特に、麦茶用は高タンパクの大麦が求められます。早すぎる実肥は遅れ穂の発生を助長しますので、下の目安を参考に出穂10日後に実肥を施用ましょう。また、止葉出葉期の莖数が700本/m²以上で生育が旺盛であれば、止葉展開期からの早期実肥でも問題ありません。

【実肥量(窒素成分)の目安】

分施肥系または実肥成分を含まない一発肥料の場合	4kg/10a
実肥成分を含む一発肥料(大麦専用MFS等)の場合 莖数が多いところ、葉色が薄いところは、窒素成分で2kg/10aを施用する	1～2kg/10a